中学１年　国語科　教材別テスト⑨　模範解答・解説

「今に生きる言葉」（故事成語・漢文「矛盾」）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

教科書の本文（現代語訳・脚注・解説）は載せていません。**教科書『国語１』の「今に生きる言葉」のページを開いたまま**解答します。大問四の【資料】には、著作権の切れている『韓非子』の**白文の冒頭と書き下し文**だけを示しました。この教材は、**①漢文を訓読する決まり（白文・訓読文・書き下し文／返り点・送り仮名）**と、**②故事成語を意味まで理解して使う力**の二本立てで出題するのが基本です。暗記だけで終わらせず、「矛盾」の話の**どこが食いちがっているのか**を自分の言葉で説明できるかを確かめてください。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（読み10問・書き10問）	１点×20＝20点
	二	故事成語（意味の選択５問・短文の空欄４問）	２点×９＝18点
	三	漢文の基礎（白文・書き下し文／返り点／送り仮名／故事成語とは）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「矛盾」の読解と故事成語の活用	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① **白文・訓読文・書き下し文**のちがいを区別できるか。

② **返り点（レ点・一二点）**にしたがって、漢文を読む順序を正しくたどれるか。

③ 「矛盾」の話の中で、商人の**二つの自慢が同時には成り立たない**ことを説明できるか。

④ 故事成語を**意味まで理解して、短文の中で正しく使える**か。

⑤ 二千年以上前の話が、なぜ**今も生きた言葉**として使われているのかを考えられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	むじゅん	⑪	辞典
②	するど（い）	⑫	武器
③	しょうにん	⑬	関係
④	じまん	⑭	広告
⑤	ゆらい	⑮	主張
⑥	くんどく	⑯	疑問
⑦	すいこう	⑰	争う
⑧	しんちょう	⑱	確かめる
⑨	つらぬ（く）	⑲	補う
⑩	ほこ（らしい）	⑳	利益

小計　20点

【注意したい字】

・①「矛盾」は、この教材の中心となる語。「**矛**」**は縦画をつき出して書く五画の字**。「予」「矢」と書きまちがえない。「盾」の下の部分は「**目**」。「循」「順」との混同に注意。

・**送りがなまで必要**な問題…②「鋭い」、⑨「貫く」、⑩「誇らしい」（読み）、⑰「争う」、⑱「確かめる」、⑲「補う」（書き）。「争そう」「確める」「補なう」は×。送りがなのない「争」「確」「補」も×。

・⑥「訓読」は「くんどく」。「くんよみ」と答えたものは×（「訓読み」とは別の語）。⑦「推敲」はむずかしい字なので読みのみで出題。⑧「慎重」は「しんちょう」。「しんじゅう」などと書いたものは×。

・⑫「武器」の「器」は点を忘れない。⑬「関係」の「関」は門がまえ。⑳「利益」は「りえき」。「りやく」と読まないこと。

二　故事成語　（２点×９＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	**五十歩百歩**（『孟子』）…五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑っても、どちらも逃げたことは同じ。「少しはちがうが、本質は変わらない」。「よい意味で差がある」ととるのは誤り。
(2)	**イ**	**蛇足**（『戦国策』）…蛇の絵に足をかき足して負けた話から。「余計なつけ足し」。ウの「始める前の準備」は蛇足とは無関係。「蛇足」と(9)の**画竜点睛**（大切な仕上げ）は**正反対**の意味なので取りちがえに注意。
(3)	**エ**	**漁夫の利**（『戦国策』）…シギとハマグリが争っているところを漁師がまとめて捕らえた話。**第三者**が利益を得る点が要。ウの「助け合って得をする」は別の意味。
(4)	**ア**	**四面楚歌**（『史記』）…項羽が、四方から故郷の楚の歌を聞き、味方がいないことを知った話。「にぎやか」ではなく**孤立**を表す。
(5)	**ア**	**推敲**…詩の一字を「推す」か「敲く」か迷った話から、**文章を何度も練り直すこと**。字をきれいに書く意味ではない。
(6)	**ア（杞憂）**	**杞憂**…杞の国の人が「天が落ちてくる」と心配した話。**必要のない心配**。「心配していたが何も起こらなかった」という文脈に合う。
(7)	**イ（背水の陣）**	**背水の陣**（『史記』）…川を背にして陣を張り、退路を断って戦ったこと。**もう後がない覚悟**。
(8)	**ウ（呉越同舟）**	**呉越同舟**…敵対する呉と越の人が同じ舟に乗り合わせること。**仲の悪い者が同じ場に居合わせる／協力せざるをえない**こと。
(9)	**エ（画竜点睛）**	**画竜点睛**…竜の絵に最後に瞳（睛）を入れると竜が飛び去った話。**最後の大切な仕上げ**。「画竜点睛を欠く」で「仕上げが足りない」。使われなかった**オ**「**朝三暮四**」は「目先の違いにこだわって、結果が同じであることに気づかないこと」。

小計　18点

三　漢文の基礎　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	**白文**＝漢字だけの、何も手を加えていない漢文。「楚人有鬻盾与矛者」の形。
(2)	**ウ**	**書き下し文**＝訓読文を、漢字と仮名で日本語の文として書き改めたもの。「楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。」の形。白文に句読点・返り点・送り仮名をつけた段階が**訓読文**（イ）。
(3)	**①→③→②**	**レ点**は「すぐ下の一字を読んでから、その字にもどる」しるし。「我　読〈レ〉　書」＝「我　書を読む」。①我→③書→②読の順。順序を「①②③」としたものは×。
(4)	**①→③→④→②**	**一二点**は、二字以上へだてて上の字にもどるときに使い、「一」**のついた字を読んでから、**「二」**のついた字**にもどる。「我　読〈二〉　漢　文〈一〉」＝「我　漢文を読む」。①我→③漢→④文（一）→②読（二）の順。レ点（(3)）は一字だけ下から上にもどる場合に使う、というちがいもおさえる。
(5)	**送り仮名**	訓読文で、漢字の右下に小さく**片仮名**で書き添える仮名。「有リ」「読マズ」の「リ」「マズ」など。助詞・助動詞・活用語尾を補い、日本語として読めるようにする。「おくりがな」とひらがなで書いたものも正答とする。「ふりがな」「返り点」は×。
(6)	**ア**	**故事成語**＝中国の古典などに記された昔の出来事・物語（故事）から生まれ、今も使われている言葉。単なる二字熟語（ウ）や現代中国語の翻訳（エ）ではない。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【返り点の読み方を確認するコツ】

①　**上から順に読み、返り点のついた字はいったん飛ばす。**②　飛ばした字は、**レ点ならすぐ下の一字を読んだ直後、一二点なら「一」のついた字を読んだ直後に「二」の字へ**もどって読む。③　迷ったら、書き下し文の語順（日本語の語順）と見くらべる。「漢文を読まず」の「を」「ず」が送り仮名にあたる。

四　「矛盾」の読解と故事成語の活用　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3点	**ア**	「能く陥すもの莫し」＝「突き通せるものはない」。**盾の側からの自慢**で、堅さにおいて並ぶものがないという意味。イ〜エは資料のどこにも書かれていない。
(2) 3点	**ア**	「物に於いて陥さざる無し」＝「突き通せない物はない」。**二重否定**なので、強い肯定（＝どんな物でも突き通す＝鋭さに並ぶものがない）になる。イ〜エは資料のどこにも書かれていない。
(3) 5点	**（例）あなたの矛であなたの盾を突いたらどうなるのか。(23字)**	**「商人自身の矛で、商人自身の盾を突く」**（3点）＋**「どうなるのかと問うた」**（2点）で採点。 「矛と盾のどちらが強いか」だけでは2点。「盾を買うか矛を買うか」など売買の話にしたものは0点。**自分の商品同士をぶつける**という点が要。二十〜三十字から外れたら－1点。
(4) 4点	**ア**	商人の二つの自慢は、どちらか一方しか本当であり得ない。客は**その二つを組み合わせてぶつける**ことで、自慢がうそだと示した。だから鋭い。
(5) 8点	**（例）どんな矛も通さない盾と、どんな物も通す矛は、同時に存在することができないから。(39字)**	**「どんな矛も通さない盾」**（3点）＋**「どんな物も通す矛」**（3点）＋**「二つは同時には成り立たない／両方が本当にはなりえない」**（2点）で採点。 「商人がうそをついていたから」だけは2点。「客がこわかったから」「言葉がわからなかったから」は0点。**指定語「盾」「矛」の両方を使っていない解答は－2点**。三十五〜四十五字から外れたら－1点。
(6) 7点	**（例）商人の話のように、二つのことがらが食いちがい、同時には成り立たないこと。(36字)**	**「二つのことがら（言葉・主張）が食いちがう」**（4点）＋**「同時には成り立たない」**（3点）で採点。 「矛と盾という武器のこと」のように**語の由来だけ**を書いたものは0点。「まちがっていること」「うそのこと」だけでは2点（**二つが同時に成り立たない**という点が中心）。話とのつながり（商人の自慢／矛と盾の話から）にふれていれば加点対象。三十〜四十字から外れたら－1点。

四　「矛盾」の読解と故事成語の活用（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 6点	**（自由記述・固定解なし）** **※例…「早ね早起きをすると言いながら夜ふかしをするのは矛盾している。」**	**【採点基準】** ・満点（6点）…「矛盾」が**文法的に正しく**使われ（「矛盾する」「矛盾している」「矛盾だ」など）、**食いちがう二つのことがらが具体的に書かれている**こと。 ・4点…「矛盾」の使い方は正しいが、食いちがう二つの内容が一つしか示されていない（例「それは矛盾だと思う。」）。 ・2点…「矛盾」を使ってはいるが、意味がずれている（例「矛盾して悲しい。」＝単に「残念」の意味で使っている）。 ・0点…「矛盾」を使っていない／「矛順」「矛循」など**表記が誤っている**／意味が全く通らない。 ※身のまわりの例（校則・標語・広告など）を挙げた解答も、二つの食いちがいが示せていれば満点とする。
(8) 4点	**イ**	この話は商売の失敗談ではなく、**自分の言葉に食いちがいがないか確かめよ**という教え。ア・ウ・エはいずれも話の中心からずれている。
(9) 5点	**（例）短い言葉で、今の人にも通じる人間の姿や教えを言い表せるから。（30字）**	「**短い言葉で言い表せる（便利・わかりやすい）**」（2点）＋「**時代が変わっても変わらない人間の姿・失敗・教えを表している**」（3点）で採点。 「昔からあるから」「有名だから」だけは0点。**今の自分たちにもあてはまる**という内容が入っていることが条件。二十五〜三十五字から外れたら－1点。
(10) 2点	**②→③→①**	「不〈二〉亦　説〈一〉」＝「亦説ばしからず」。返り点のついた①不を飛ばし、②亦→③説と読み、「一」のついた③説を読んだところで「二」のついた①不にもどる。①→②→③としたものは×。
(11) 3点	**ア・イ・ウ**	エ…客が矛を実際に買って盾を突いたという内容は**本文にない**（客は問いかけただけ）ので×。オ…商人が値段を下げたという内容は**本文にない**ので×。**ア・イ・ウの三つがそろって3点（完答）**。一つでも欠けたり余分があれば0点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. **返り点の読み順**。レ点は「すぐ下の一字を読んでからもどる」、一二点は「一→二」の順。返り点のついた字を上から順に読んでしまう誤りが最も多い。
2. **白文・訓読文・書き下し文**の区別。「返り点や送り仮名がついているか」「仮名を使って日本語の文になっているか」で見分ける。書き下し文と現代語訳を混同しないこと。
3. **送り仮名は片仮名**で漢字の右下に小さく書く。「ふりがな（読み方)」とは役わりがちがう。
4. **「矛」と「盾」の字形**。「矛」は縦画をつき出す五画、「予」「矢」と書きまちがえやすい。「盾」の下は「目」。「矛順」「矛循」は誤答。
5. **「物に於いて陥さざる無し」の二重否定**。「突き通せない物はない」＝「どんな物でも突き通す」。否定が二つ重なると強い肯定になることをおさえる。
6. **「矛盾」の意味の取りちがえ**。「うそ」「まちがい」ではなく、**二つのことがらが食いちがって同時には成り立たないこと**。ここが記述の分かれ目。
7. **故事成語の意味の取りちがえ**。「五十歩百歩（＝たいして変わらない)」をほめ言葉に、「蛇足（＝余計なもの)」と「画竜点睛（＝大切な仕上げ)」を逆に、「漁夫の利（＝第三者が得をする)」を「助け合って得をする」ととる誤りが頻出。
8. **出典の混同**。「矛盾」は『**韓非子**』。『論語』『史記』『孟子』などと取りちがえないこと（五十歩百歩＝『孟子』、蛇足・漁夫の利＝『戦国策』、四面楚歌・背水の陣＝『史記』)。